

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	ファミリーケア
事業所名	グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H21年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族の方が安心して生活して頂くために、一人ひとりの変化について職員が情報を共有し細かいケアが行えるよう努めると共に、温かく家庭的な雰囲気与生活していただけるよう日々のケアを行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりに機会あるごとに名前を呼びながら優しく声をかけ、本人の希望や思いを聞き取っており、会話の難しい利用者は表情などからも思いを把握するよう努めている。職員全員が個人情報取り扱いについては十分配慮しており、また利用者に対しては人生の先輩として常に尊敬の念を持ち、プライドを傷つけることのないよう接している。スーパー等へ旬の食材の買い物にたびたび出かけ、利用者の希望に合わせてメニューを考えることもあり、食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	亀本知子
評価完了日	21 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員一人一人が理念に沿った温かい介護の実現にむけて日々のケアにあたっています</p> <p>(外部評価) 「温」を基本理念とし、「目配り・気配り・こころ配り」を運営目標の中心に掲げ、温もりのある生活が送れるよう、支援に努めている。理念の中には、地域との関係性や連携を大切にする地域密着型サービスの意義は言葉として盛り込まれていない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気のいい日には、近所のスーパーに散歩がてら買い物に出ている。ご近所の方とも顔なじみになり、声をかけてもらったり、お花を分けてもらったりしている</p> <p>(外部評価) 地域の敬老会や幼稚園の遊戯会に招待されたり、地方祭にはお神輿がホームに入っている。また、近くのスーパーに買い物に出かけて近所の方との会話を楽しむなど、地域との交流を深めるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居の間合せ時や電話での相談には、他の施設や、サービス等について説明をしている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームからの報告が主になっているが、最近少しずつ、意見がもらえるようになってきている。今後は、家族の方や、地域の方の参加が増えるよう、取り組んでいきたい	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター、地域代表者などの出席を得て、数か月ごとに開催されている。会議ではホームからの報告事項を中心としており、出席者からの質問や意見などが十分出ているところまでは至っていない。	会議はおおむね2か月ごとに開催し、出席者からの声を十分聞き取り、更にホームへの理解や協力を得ながら、サービスの向上に活かしていくことが望まれる。また、災害対策への協力依頼なども会議を通して話し合うなど、より有用に活用していくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の実施する研修に参加したり、担当の方と半紙をする機会もあり情報交換をしている。運営推進会議にも参加してもらっている	
			(外部評価) 運営推進会議の機会を通してホームからの情報を伝えていくが、日頃から利用者の様子やホームの実情などを伝えて助言等をもらうなどの協力関係が築けているとまではいえない。	より一層ホームについての理解を深めてもらい、協力を得られるよう、ホームから積極的に情報を伝えて共有し、連携を図ることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) その時の状況によって、鍵を掛けていることもあるが、声掛けやかかわりで落ち着くこともあり、職員も鍵をかけない工夫をしている	
			(外部評価) 職員は、身体拘束が利用者にも与える身体的・精神的な弊害をよく認識しており、日中は玄関に施錠をしないで一人ひとりを見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保しながら自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待には、言葉の暴力も含まれることを職員には意識付けして、みんなで考えるようにしている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、該当する方がいないが、機会があるごとに職員には説明し、理解を深めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、入院、退居、利用料金、医療連携加算、看取りについてのホームの方針等は時間をとって説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の様子などを報告し何でも言えるような関係作りをしている (外部評価) 家族に金銭出納に関する書類を送付する際には、あわせて利用者のホームでの様子や状況等を伝え、また要望や意見をホームに伝えてもらうようお願いしている。ホーム内外の苦情申立窓口を重要事項説明書等に明記して家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回ミーティングを行い職員で話し合う機会を設けている。また、日頃から、コミュニケーションを密にし要望や不満を聞くようにしている (外部評価) 管理者は、毎月のカンファレンスの中で職員の意見や日頃の思いを開き、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有休や、公休などできる限り職員の希望に添えるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 現状は、行えてないが、今後参加できる機会を設けていきたい	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協や包括が開催する研修などに参加している 年2回、西地区のグループホームが集まって、意見を交換できる場所があり、顔見知りのかたもできてきた	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活史や現在の状況などの聞き取りを行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に話し合いを行い充分な聞き取りをし、入居後すぐに暫定プランを作って対応している	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問で伺った内容を元に、職員間で話し合うようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側、される側という観点はもたず、みんなで協力し共に生活していけるよう心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行っていくことで、家族の方にも協力をしてもらえるよう働きかけている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方もおり、面会も定期的に来てもらえている。近所の方や、知人の方の面会も定期的に来てもらえている。 (外部評価) 利用者は、家族や知人が訪ねて来た際には会話を楽しみ、定期的に来訪する美容師とも声をかけ合っている。近くのスーパーにはたびたび出かけ、地域の方とあいさつすることも楽しみの一つとなっている。公園へのドライブや花見、外食等も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむようにしている。仲の良い利用者のかた同士で、居室の行き来等が見られる	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方の家族の方が、時々ホームに遊びに来てくれている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、表情や言葉から把握するよう努めている (外部評価) 職員は、利用者の名前を呼びかけながら積極的に声をかけ、本人の希望や思いを聞き取っている。会話での把握が難しい利用者については、表情や行動などからも思いを把握するよう努めている。入居前に家族から聞き取った生活習慣や好み等の情報を、ケアの中に取り入れて活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってからでも、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態にあわせ声かけを行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の要望、家族の方の意向をふまえ、職員全員でカンファレンスを行っている	
			(外部評価) 日々の介護記録を基に、生活の様子や健康状態等を職員全員で検討し、必要に応じて主治医のアドバイスを受けながら適切な介護計画を作成し、利用者及び家族の同意を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行っているが、変化があった場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化は、生活記録に記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況で通院の送迎を行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) いままでに、かかっていた医療機関に引き続き通院し ている方はもいるが、特に無い方は、3つの医療機関か ら選択していただいている (外部評価) 協力医療機関とは24時間体制で連携を取っており、 定期的な往診もある。その他介護老人保健施設や歯科 医院とも連携体制がある。受診については、家族が対 応できない場合等にはホームで対応し、家族に状況を 報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、定期的にお見舞いに行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の方の意向を伺い、主治医の意見をふま えた上で職員で話し合いを行い方針を考えている (外部評価) 利用者及び家族がホームでの終末期ケアを望む場合 は、同意を得たうえで具体的にケアの方針や対応につ いて話し合い、医師、看護師、職員等と十分に連携を 取りながら、本人と家族の意思を尊重したケアを心が けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救急法の勉強会を行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている (外部評価) 年2回の避難訓練を利用者と共に実施しており、うち1回は消防署の指導を受けている。消火器の取り扱い等の消火訓練は行っているが、夜間を想定しての訓練はまだ実施しておらず、また災害対策マニュアルも完備していない。	災害対策のマニュアルを整備してホームの要所に備えておき、年1回は夜間を想定しての訓練を行うことが望まれる。また運営推進会議等を通じて災害時対応の協力を地域にお願いし、地域住民の協力を得て実践的な訓練を継続して行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えられるよう、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に日々のケアにあたったている (外部評価) 個人情報取り扱いについては、全職員が十分理解して適切に対応している。人生の先輩として常に尊敬の念を持ち、利用者のプライドを傷つけることのないように丁寧な声かけを行い、心を込めてケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いくつかの選択肢を用意し、その中から選んでもらうようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、声かけをしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている (外部評価) スーパーへ旬の食材を買いに出かけ、利用者の希望に合わせたメニューに変更することもある。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。配慮の必要な利用者には、職員が傍でさりげなく支援している。下膳の手伝い等を行っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。水分の摂取量の少ない方は、紅茶ゼリーや牛乳かんでんなどを摂取してもらっている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は、声かけを行い、出来ない方は介助している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやおむつ交換をおこなっている	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけをして、それぞれに応じた支援を行っている。尿意のない利用者にも、排泄チェック票を基に、時間を見計らって声かけ・誘導等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している 水分量にも注意している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聴くようにしている	
			(外部評価) 基本的には一人ひとりの希望する曜日や時間帯に合わせて、週に2回以上は入浴してもらうよう支援している。羞恥心や恐怖心等の心情にも十分配慮し、利用者が入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている 昼夜逆転しないよう気をつけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、洗濯物など、動ける方が協力して行ってくれている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調によって、買い物に出掛けている	
			(外部評価) 車いすを利用している方もいるが、2日に1回はホーム近くの安全な道を選び一緒に散歩に出かけたり、近くのスーパーに食材の買い物に行っている。また、近くの幼稚園から雛祭りやクリスマス会に招待を受けており、楽しみに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。ホームで預かっている方も、買い物に出た際は、自分で精算してもらっている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないよう、注意している。ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温にあわすようにしている	
			(外部評価) 採光や換気、テレビの音量等にも気を配り、ゆったりと寛げる雰囲気である。食事時には調理の音や料理の匂いが家庭的な雰囲気をかもし出し、居心地のよさを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアーに2箇所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や棚、テレビなど、思い思いのものを持ち込まれている	
			(外部評価) 居室は明るく、馴染みの調度品を持ち込み、利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせるような環境づくりのための工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、目印をつけるなどしている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	株式会社 ファミリーケア
事業所名	グループホーム いまづ
所在地	松山市西埴生町1184-6
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者家族の方が、安心して生活して頂くために一人ひとりの変化について細かいケアが行えるよう努めるとともに家庭的な雰囲気の中で生活していただけるように日々のケアに当たっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりに機会あるごとに名前を呼びながら優しく声をかけ、本人の希望や思いを聞き取っており、会話の難しい利用者は表情などからも思いを把握するよう努めている。職員全員が個人情報取り扱いについては十分配慮しており、また利用者に対しては人生の先輩として常に尊敬の念を持ち、プライドを傷つけることのないよう接している。スーパー等へ旬の食材の買い物にたびたび出かけ、利用者の希望に合わせてメニューを考えることもあり、食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアグループホーいまづ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 藤川 洋子

評価完了日 21 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 温を基本に3つの配りを入れている 目につくところに掲げてあり 常に意識し日々の介護に取り組んでいる 目配り 気配り 心配り</p> <p>(外部評価) 「温」を基本理念とし、「目配り・気配り・こころ配り」を運営目標の中心に掲げ、温もりのある生活が送れるよう、支援に努めている。理念の中には、地域との関係性や連携を大切にする地域密着型サービスの意義は言葉として盛り込まれていない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域や学校の行事に参加、幼稚園との交流では行事に招待されたり訪問を受けたりしている 可愛い園児のお遊戯に職員も利用者も心いやされている。近所のスーパーへの買い物では声を掛けてもらうなどのことがある</p> <p>(外部評価) 地域の敬老会や幼稚園の遊戯会に招待されたり、地方祭にはお神輿がホームに入っている。また、近くのスーパーに買い物に出かけて近所の方との会話を楽しむなど、地域との交流を深めるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホームを訪ねてこられた方の相談にのることや家族さんの困りごとにアドバイスしたりすることもある 実習生も受け入れているが、月一人なので利用者の刺激にもなっている その際利用者の状況をよく話してからかわりを持ってもらうようにしている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームからの報告などが主な議題のことが多いが参加者の方からアドバイスや情報ももらっている 地域の方に参加してもらえようとりくんでいきたい	
			(外部評価) 市担当者、地域包括支援センター、地域代表者などの出席を得て、数か月ごとに開催されている。会議ではホームからの報告事項を中心としており、出席者からの質問や意見などが十分出ているところまでは至っていない。	会議はおおむね2か月ごとに開催し、出席者からの声を十分聞き取り、更にホームへの理解や協力を得ながら、サービスの向上に活かしていくことが望まれる。また、災害対策への協力依頼なども会議を通して話し合うなど、より有用に活用していくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の実地する研修に参加したり担当者と話をする機会もあり情報交換することができる。運営推進会議にも参加してもらえる	
			(外部評価) 運営推進会議の機会を通してホームからの情報を伝えていくが、日頃から利用者の様子やホームの実情などを伝えて助言等をもらうなどの協力関係が築けているとまではいえない。	より一層ホームについての理解を深めてもらい、協力を得られるよう、ホームから積極的に情報を伝えて共有し、連携を図ることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベットの柵や立ちあがりを妨げることはしていない 事情により鍵をかけることもあるが、出ていこうと行動をおこしても声かけをし様子を見対応している、外出した場合は気づかれないようにあとをつけさりげなく声をかけ、自分の意思でホームにかえれるよう関わっている	
			(外部評価) 職員は、身体拘束が利用者にも与える身体的・精神的な被害をよく認識しており、日中は玄関に施錠をしないで一人ひとりを見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保しながら自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待といえば身体的虐待をまず思うことが多いが、いろんな形があることをミーティングなどで話し合い理解を深め不適切なケアをしないように取り組んでいきたい	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今のところ利用している方はいないが家族さんの状況により必要となった場合に備え職員に説明し、勉強会をしたり研修に参加するなどをして利用者の支援につなげたい	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず1部ずつ持ち双方で目をとうしながら確認し説明をしている。出来ること出来ないこともきちんと説明し納得の上で印鑑をもらっている。主治医に問することは特に重要なのでくわしく話すようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 顔なじみの家族の方とは話す機会も多くホームへの要望や意見なども聴くことができるが、面会の少ない家族さんも参加してもらえそうな、家族会をしていきたい (外部評価) 家族に金銭出納に関する書類を送付する際には、あわせて利用者のホームでの様子や状況等を伝え、また要望や意見をホームに伝えてもらうようお願いしている。ホーム内外の苦情申立窓口を重要事項説明書等に明記して家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝の申し送りのときに職員にかんする事業所からの報告をしている 職員の意見や要望は、本社会議の時に代表者に伝え回答をえている (外部評価) 管理者は、毎月のカンファレンスの中で職員の意見や日頃の思いを開き、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 就業規則もあり健康診断の実地もしている 有給も本人の希望をうけいれている 勤務も可能な限り本人の希望にそうようにしている 職員も自分の資格修得のため向上心をもっている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) すべての職員が研修に参加する機会がないのが現状だが今後研修内容などでそれぞれの職員みな参加できるよう取り組みたい	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社共や包括で開催される研修会に参加している 他のグループホームとの交流もある お互い意見を交換し親睦を深めている	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の相談があれば本人さんと会い身体レベルの把握、会話をし本人さんの様子を職員に伝え本人さんの思いに向き合いながらかかわっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦勞やいままでのサービスの利用状況などをよく聞き、ホームで対応できることなどをくわしく話し家族さんの思いを受け止めながらよりよい関係がもてるようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時 本人家族の要望 思い 状況を確認し何が必要か見極めできることは実行しその時点でできないと思われることでも方策を考えるようにしている 必要に応じて他のサービス利用の提案調整など出来ることは実行するようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の想いを共感し理解するように努め共に支えあえる関係づくりを心がけている 本人を深く知ろうとする姿勢をもちお互いが協働しながらおだやかに生活できるような工夫声かけをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に本人さんの様子や状態を伝えることで家族と職員が本人の生活をともに支援していく対等な関係を築けるように努めている 電話による連絡等もしている 支援者として家族が介護にかかわれる機会づくりをしたい	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方も多くホームに訪ねることも多い 家族との関係を大切に連携して支援につとめている 同系列のデイサービスを利用している方がホームの入居者にあいに来ることもある (外部評価) 利用者は、家族や知人が訪ねて来た際には会話を楽しみ、定期的に来訪する美容師とも声をかけ合っている。近くのスーパーにはたびたび出かけ、地域の方とあいさつすることも楽しみの一つとなっている。公園へのドライブや花見、外食等も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の特性を生かし利用者個人個人の関係性を大切にしている。利用者同士が同じ時間を過ごすなかで職員が見守りしながら間に入りともに支えあいながら生活できるよう支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用の終了が入院の場合生活状況など書面に作成しわたしている、入院中の経過も家族さんに連絡を取り見舞いに行くなどしている。死亡された方の葬儀に参列することもある、後日家族さんが来られ思い出話をされたりしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の係わりの中から利用者一人一人の表情や行動の把握をしその方に合ったかかわりを持つようにしている。耳の聞こえにくい方など身ぶり手ぶりをすることでお互いの意思が通じる。本人さん主体で職員がかかわっている (外部評価) 職員は、利用者の名前を呼びかけながら積極的に声をかけ、本人の希望や思いを聞き取っている。会話での把握が難しい利用者については、表情や行動などからも思いを把握するよう努めている。入居前に家族から聞き取った生活習慣や好み等の情報を、ケアの中に取り入れて活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんの面会時話を聞いたり、本人さんがふと漏らした言葉などをきっかけに話を聞きその方をよりよく理解しかかわれるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の生活リズムを職員が把握している。体調の変化等にも注意し本人さんのできること、できないことなど職員で伝えあいながら様子を介護記録に記載している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人さんの状況に合わせ介護計画を作るようにしているがうまく本人さんの思いが伝わらないこともある。職員みなで作上げていくことができず検討課題です	
			(外部評価) 日々の介護記録を基に、生活の様子や健康状態等を職員全員で検討し、必要に応じて主治医のアドバイスを受けながら適切な介護計画を作成し、利用者及び家族の同意を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行っているが、変化があった場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録、生活ノートに気づいたことや体調の変化などを記入し職員全員が確認できるようにしている。バイタルチェック、食事、排泄、記録は個別に記録している。朝の申し送り時にならず確認し変化のあるときは対応を話しあい介護計画のみなおしに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人家族の状況に応じて病院受診などの対応をしている。家族さんから依頼のあるときなどは相談にのるなどして出来る限り対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容サービスを利用している、利用者も楽しみにしている。運営推進会議に民生委員の方や包括のかたに参加してもらうことで利用者の相談もできるようになった、近くのスーパーへの買い物は利用者で行くようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 入居時ホームのかかりつけ病院の話をし家族さんの希望を聞いている、同意や納得の得られた場合はホームへの往診で対応している、その場合は必ず診療情報の提供をお願いしている。受診が必要な場合家族さんに連絡し状況によりホームで対応することもある	
			<p>(外部評価)</p> 協力医療機関とは24時間体制で連携を取っており、定期的な往診もある。その他介護老人保健施設や歯科医院とも連携体制がある。受診については、家族が対応できない場合等にはホームで対応し、家族に状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> 利用者の日々の体調や行動を見逃さないようにし、職員間で伝えあっている。変化等があれば看護職に連絡し主治医への連絡等をし支持を受けている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時は医療機関と連絡をとり情報の交換をしている入院先を訪ね様子を見るなどし本人さんの状態を職員に伝えている 家族の方とも意見交換し退院支援をはかっている 医師による診療情報やサマリーの交換をしている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 家族さんの面会時に状態の変化の様子を詳しく話している、ホームで対応できること出来ないことも伝え家族さんの意見をよく聞き主治医に伝えるようにしている 本人さんと家族さんの想いを大切にしかかわっている	
			<p>(外部評価)</p> 利用者及び家族がホームでの終末期ケアを望む場合は、同意を得たうえで具体的にケアの方針や対応について話し合い、医師、看護師、職員等と十分に連携を取りながら、本人と家族の意思を尊重したケアを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所で応急手当の研修をおこない職員も受講している 夜間緊急時の対応はマニュアルを作成している 今後もミーティング等をひらき勉強会をしていきたい	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方の訓練をしている。災害に備えた備蓄当のリストを作るなどしている 業者による定期的な設備点検をしている (外部評価) 年2回の避難訓練を利用者と共に実施しており、うち1回は消防署の指導を受けている。消火器の取り扱い等の消火訓練は行っているが、夜間を想定しての訓練はまだ実施しておらず、また災害対策マニュアルも完備していない。	災害対策のマニュアルを整備してホームの要所に備えておき、年1回は夜間を想定しての訓練を行うことが望まれる。また運営推進会議等を通じて災害時対応の協力を地域にお願いし、地域住民の協力を得て実践的な訓練を継続して行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者が居室で過ごしている時は必ずノックをし声かけしてから入室する、排泄関係の介助をする場合にも必ず声かけし本人の理解を得るなどし、利用者向き合ってゆっくりと話すよう心がけている (外部評価) 個人情報取り扱いについては、全職員が十分理解して適切に対応している。人生の先輩として常に尊敬の念を持ち、利用者のプライドを傷つけることのないように丁寧な声かけを行い、心を込めてケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 間食時何にするか本人にきき決めてもらうようにしている、うまく表せない方などは熱いの、甘いなどの声かけして答えを聞きだしている、耳の聞こえにくい方は筆談をするなどし 言葉を発せない方には表現の方法を理解し排泄や本人の想いをくみっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の体調を見ながら声かけしすぎしてもらっている 居室で過ごしている方には間食時や食事時の声かけをかねて様子を見るなどしている 本人さんのペースを大切にしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分でできる方は好みの服を着てもらっている できない方は職員が支援している 定期的に訪問美容室を利用し本人の希望に合わせた髪型にしている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物に利用者さんと出かけ食材を選んでもらったり、季節の物を取り入れた行事食を取り入れている 下ごしらえをしてもらうなどもしている キッチンが対面なので 今日のごはんなに いい匂いがする なども会話もできる メニューはできるだけ利用者さんに合わせるようつとめている (外部評価) スーパーへ旬の食材を買いに出かけ、利用者の希望に合わせたメニューに変更することもある。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。配慮の必要な利用者には、職員が傍でさりげなく支援している。下膳の手伝い等を行っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた食事量を職員みな確認しながらできるようにしている その人が食べよい形態にするなどの工夫もしている できるだけ自分で食べれるようにするにはどのようにすればいいか常に意見を出し合いとりいれている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者のレベルにより声かけをしている 介助のいる方はできないところを手伝っている 義歯の方は夕食後ははずしてもらい入れ歯洗浄剤を使用している 全介助の方はスポンジやガーゼを使用して行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>見ればすぐわかるように使用していないときはトイレのドアはあけている 利用者の様子を見ながらトイレで排泄できるよう声をかけるなどしている 紙ぱんつやパットなども本人に合わせて使用している</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけをして、それぞれに応じた支援を行っている。尿意のない利用者にも、排泄チェック票を基に、時間を見計らって声かけ・誘導等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排泄記録を使用し排便の間隔に注意している、水分補給も利用者により残さずのんでもらえるようジュースや甘い飲物にするなどしている、水分摂取の大切さを日び申し送り職員が常に気にかけている</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>必ず声かけし本人に確認し希望の時間を聞いている。入浴を拒む方にはその日の職員で声かけ、対応しながら試みている。衣類も自分脱いでもらうようにしできないところを介助している 一人一人の気持ちや習慣に合わせてゆっくりつかりたい人には順番を考慮するなどの工夫もしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的には一人ひとりの希望する曜日や時間帯に合わせて、週に2回以上は入浴してもらうよう支援している。羞恥心や恐怖心等の心情にも十分配慮し、利用者が入浴を楽しめるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の体調や表情希望等を考慮しゆっくり休息がとれるように支援している。ホールでうたたねをしている場合など居室へ誘導し昼寝をしてもらうなどしている。民剤を服用している方はおらず常に夜間の睡眠のようすを申し送っている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の処方箋はフファイルにして保管し常に確認できるようにしている、日常生活状況を医師と連絡相談し処方や用量について意見交換に努めている、変更がある場合は職員間で申し送りを徹底している。服薬は利用者の手に触れないよう職員が管理し服薬確認も必ずしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 事前に生活歴を把握することに努めたり利用者との会話の中からその人らしさを見つけ一人一人に合った環境を整えながら自分の力を生かせる場面を提供しています。日常生活でできること出来ないことを決めず常に新しいことにも参加していただけるよう努力しています。小さな事でもお願いし感謝の言葉を添えています	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の生き外や目的の中から外出計画を作成し利用者と話し合い戸外に出かける機会を決めています。車イスやシルバーカーなどを状況に合わせて使用しているホームでの外出を拒否する方は家族さん美容院や買い物に行くことで家族との触れ合いと外出を兼ねています (外部評価) 車いすを利用している方もいるが、2日に1回はホーム近くの安全な道を選び一緒に散歩に出かけたり、近くのスーパーに食材の買い物に行っている。また、近くの幼稚園から雛祭りやクリスマス会に招待を受けており、楽しみに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出かける際お小遣いとして預かっている中から少額を財布にいれ本人さんに手渡し持ってもらう。支払は職員が代行する事もあるが自分で品物を選んで買うことを楽しんでもらっている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきが届いた時など本人さんに手渡すとともに会話の糸口になっている。電話は事務室にありプライバシーは保たれている。電話を受けるかけることの制限はしていず状況にあわせ使用してもらっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) TVの音量 外部の光 温度計を使用し湿度、温度への対応 台所やトイレは常に換気扇を使い注意している。台所は対面になっており食事の美味しい匂いも感じることができる。ホールには季節の手作りのものを飾るよう心がけている (外部評価) 採光や換気、テレビの音量等にも気を配り、ゆったりと寛げる雰囲気である。食事時には調理の音や料理の匂いが家庭的な雰囲気をかもし出し、居心地のよさを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホール内に2か所ソファが置いてあり1か所にはテーブルも置かれている、そこに座り簡単な手作業もできる。手芸をしたりチラシでゴミばこを折ったりされている。疲れたら休んだり仲良く会話したりされている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族さんといっしょに写っている写真を飾ったり趣味を生かした物を飾っている。荷物を作り部屋のなかに置いたりしていてもその方が落ち着けるのならそのままにし職員が様子を見ながら対応している (外部評価) 居室は明るく、馴染みの調度品を持ち込み、利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせるような環境づくりのための工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を付けたりドアの取っ手に造花をつけるなどし目印にしている。トイレも使用していない時はドアを開けておくなどし みればわかるようにしている。職員みなが利用者の状況にあわせ声かけや周りの環境を考えている	